江東未来会議
第１分科会（子育て・教育分野）
第２回　議事概要

日時：平成 19 年 10 月 11 日（木）19:00～21:30
場所：文化センター６階　第１・２会議室
参加人数：23 人

１．開会

２．事務局からの連絡事項

（１）配布資料の確認

（２）前回欠席者の自己紹介

〇高重コーディネーター

・前回、全員が簡単な自己紹介をしたが、欠席だった方は、江東区の好きなところ、問題だと思うところなど、手短に自己紹介をしていただきたい。

〇参加者

・江東区の好きな所は親水公園であり、散歩をすると四季折々の植物があったり、虫の声を聞いて、季節を感じられることである。ただ、集合住宅が多く、公園と対照的に環境ががらっと変わる。公園と集合住宅の環境とが融合できないのかと思う。

・江東区に住んで３年目になるが、不便なことがたくさんある。個人的には環境とまちづくりに興味をもっているが、今回はこちらの分野に参加することになった。家の前が比較的広い道路であるため、自転車が猛スピードで走り抜けたり、横並びで走ることが日常茶飯事で、また自転車の路上駐車も多い。歩行者はどのように歩いたらよいかというような状況にあり、マナーが悪いと感じている。

・江東区の好きなところは親水公園である。地域性として、豊洲地区と旧市街地地区との子どもの数、高齢化など今後格差が出てくると思うので、それをみていくことが必要だと思っている。子どもについては、最近子どもが事件に巻き込まれたり、自分が事件を起こしてしまっていることが多く、このことについて社会全体で考え、地域としても対策に取り組むべきだと思っている。

（３）グループ内での自己紹介

〇高重コーディネーター

・本日のワークショップを進めるにあたって、全員では一人ひとりの意見をくみ上げにくいので、あらかじめ４つのグループに分かれて着席いただいた。このグループは、本日の作業のためのグループで毎回グループは異なる。

・本日のグループの顔会わせをするために、若干時間をとって、グループ内での自己紹介をしていただきたい。

【グループ毎に自己紹介】

３．本日のワークショップの進め方について

〇高重コーディネーター

・本日のワークショップの進め方について説明したい。

・初めに、一人ひとりが、平成 30 年の未来を想定して、望ましい将来イメージを配布した付箋紙に記入する。この付箋紙には、一つの意見は一枚に、後で他の人がみてもわかるように数行で表現してほしい。複数のイメージがある場合には、複数枚付箋紙を記入する。

・その後、トランプ談義という方法で同じような考え方をまとめていく。この方法は、初めに一人が自分の意見を紹介し、それと同じような意見をもっている人は自分の意見を紹介する。同じような意見が集まったら、それらを１枚の白紙にはる。これを個人がもっている付箋紙がなくなるまで繰り返す。個人の将来イメージをグルーピングした白紙には、そのグループがどのようなことを表しているのか、簡単なことばで表現してほしい。

・最後にそれを模造紙にはって、グループ毎に発表をしていただく。

４．ワークショップ

（１）作業

４グループに分かれ、個々人が、子育て・教育分野における江東区における望ましい将来像のイメージを付箋紙に記入した。その後、グループ毎にトランプ談義方式により将来像に関する討議を行った。

【グループ毎に作業】

（２）発表

【作業結果】詳細は別紙（「第２回江東未来会議　子育て・教育分野」グループ別取りまとめ）参照

○Ａグループ

・地域と子ども、学校と教育のお金のことについて、８つのグループとした。一番目のブロックは、地域が一体となって子どもの教育をみていくということがあげられ、最も多い意見であった。次が、子どもの遊び場所についてである。江東区には水に親しもうといっても、実際には水に親しめる場所がないので、水に親しめる場所を作ってほしい。また、子どもがいつでも集まれる場所があれば、子ども同士の力で色々な問題を解決できるコミュニケーションがとれるのではないか。

・３つ目には、教育に関する原点の問題である。基本教育をしっかりやる。それは、子どもの芽を広げてやることである。また人間らしい生き方ということも挙げられた。さらに、教育資金の格差の話もあり、その格差を軽減できるような行政の取り組みがあればよいのではないかとの意見があった。

・親が、子どもを安心して育てられるようなことを考えてほしいという意見があった。家庭のなかでも個人が尊重されることが必要で、例えば、働きたいという女性はそれが尊重される社会でありたいという意見があった。

○Ｂグループ

・６つのグループに分けた。子育て・育児支援には親育てが多分にはいっている。第一子を産んだ母親は、出産鬱、育児不安に陥り、そのことが児童虐待につながり、あるいは育児不安や夫婦関係の悪化、離婚率の増加など、あらゆる面に影響を与える。そこで産前産後に支援する育児アドバイザーを育成し、必要な所には派遣して、応援していくことが必要だという意見である。次が家庭教育であるが、家庭で食事をすることが当たり前な生活をしたいということである。父親の労働時間の問題等で子どもとのコミュニケーションが希薄になってきており、子どもへの教育が粗末になってきているのではないか。そのことを考えると親育ても含めて社会や行政としてシステムづくりをしていくことが必要だという意見である。親子のコミュニケーションということで考えれば、例えば親の働く姿を見せるような取り組みも考えられるのではないか。

・農業によるコミュニケーションという意見もあった。例えば公園の一部を開放して、親子で畑づくりをして、親が汗をかく姿をみる、あるいは子どももいっしょに汗をかくことの意味があるのではないか。東村山市の保育園では園庭を壊して畑をつくり、そこで父親が働き、作物を収穫することを通じて、親子・親同士、地域のコミュニケーションが活発になったという話もあった。

・親子で食事をすれば、それを通して、箸の持ち方から片づけまでがなされていくのではないか。

・また、中高生の居場所がないという意見があった。コンビニの前で座って、ダラダラしていて、近隣の小中学生などから怖がられるような地域もあるようだ。このような子どもにとって、いつでも行って遊べるような場所として、児童館の夜間開放、廃校の利用

などの提案があった。また、そこを子育ての家庭や子ども、お年寄りまで様々な年齢層に開放していく。

・もう一つは世代を越えた交流という点であるが、学校へお年寄りがいって、自分の知恵や伝統などを伝えるような交流ができれば、子ども間の人間関係も育つのではないかという意見である。

○Ｃグループ

・小学校から就職するまでの一貫教育があったらいいのではないかというものが一つ。次が、時代にみあう、さらなる教育の拡大ということであり、体験学習や技術系の授業など、未来の授業内容についての意見があった。特に、技術系の授業という点であるが、江東区は運河から工業が発達した地域であり、その地域性から技術教育に重きを置くというストーリーである。また、江東区にある科学技術館のような施設を学習に大いに活用して、工業系の学習をしていくことも必要だと思う。さらに、豊洲地区などには情報系の企業も多く立地しており、これらの特徴も学校教育に活かしていったらどうか。

・子育て環境については、緑が少ないなど子育て環境が良くないので、環境を整えるということが必要ではないかという点が挙げられた。

・国際感覚のさらなる向上ということについては、外国人との交流が大切になっていくので、そのためには大人についても国際教育をすることが必要との指摘があった。

・情操を向上させる教育ということに最も多くの意見があった。意見として、ボランティアができる子どもを育てるということがあった。ボランティアは、子どもの時からやっていないとできないので、その基本には家庭におけるしつけという観点が必要である、という意見である。

・次が学校と地域をつなぐコーディネーターの仕組みをつくるということである。学校と地域が分断された感覚があるので両者をつなぐことができればよいのではないか、例えば学校に地域の人材を活用していくというようなことが挙げられている。

・その他には、学級の規模については、40 人学級は多いのでもう少し小さくするということ。エコ学習は低学年から取り組まないとその後、実行できないので小さいときからのエコ学習に取り組むということ。人と人とのコミュニケーションがないので、コミュニケーションを取れる環境を整えるということが取りまとめられた。

○Ｄグループ

・基本として、周りの力を借りた安心のできる子育てということである。まち全体で子育てをしたり、子育てを楽しめるような環境の中で子育てができるような将来であってほしい。

・そのためには、子ども達が安全でしっかり遊べる環境をつくる、町中で声かけができる環境をつくる、マナーが教えられるような環境など、子ども達とコミュニケーションが

とれるような環境をつくっていけたらいい。その基盤が、家庭ではないか。その家庭もしっかりしていったらいいと思う。

・学校の授業としては、子ども主体の授業内容ということがある。均一的なレベルアップではなく、その子どもの特徴やレベルに合わせた、その子どもの個性を伸ばせるような授業が行われればよいのではないか。同時に、子どもの可能性を育てるということである。例えば、子どもの創造力を育てる授業の採用、そのためには特徴ある学校を選択できるよう、小学校・中学校とも自由選択が前提にあってほしい。

・社会の役割として、学校以外でも学べるような環境づくりということが挙げられた。例えば、職人とのふれあいや企業との連携による授業など社会全体が学びの環境でありたい。さらに、家庭の経済格差による教育の格差が生まれないよう、高校まで皆が平等に教育を受けられる環境があればよいという意見である。

〇高重コーディネーター

・今回、各グループでまとめられた将来像については、まず、４グループの取りまとめをそのまま資料化する。さらに、４グループの意見のなかで同様なものをまとめた統合版を作成するのでご了解いただきたい。

・各グループの発表を聞いて感想や意見があればご発言いただきたい。

〇参加者

・将来像としてこうあったらいいという形でまとめているグループと、そのためにどうしたらよいかというような形での取りまとめのグループがあったが、目指すものは同じだと思った。

５．次回以降の日程について

11 月下旬に想定されていた施設見学会については、実施せず、代わりに本会議を開催することを決定した。

また、次回は、問題と課題、私たちがすべきことについて意見を出し合っていく。

６．スケジュールについて

＜次回以降のスケジュール調整結果＞

第４回　11 月 28 日（水）19:00～21:00（場所）文化センター２階　旧区政ＰＲコーナー

第５回　12 月 13 日（木）19:00～21:00（場所）文化センター２階　旧区政ＰＲコーナー

（以上）

第２回　江東未来会議　子育て・教育分野

Aグループ

安心できる居場所（家庭であればいいね）がある

- 子どもも大人も安心していられる居場所がある（家庭でも外でも）
- 子どもも大人も、誰もが気楽に安心して相談できる場がある
- 家庭はよく話をして笑顔が絶えない
- 家庭は団欒の場所である

人間のやさしさと本来の力をとりもどす

- 家庭でのゲーム、携帯電話などの取り扱いについて、すぐにでも考えていかなければ取り返しがつかないのでは。
- 子どもも大人もメール、パーソナルゲームよりもコミュニケーションを大切にしている
- 親は子どもに基本的生活習慣を身につけさせる
- いじめ←個人のそんげんに反する（行動させない）

子どもが伸び伸びと育つ環境を作る

- 江東区の川は運河ではなく、水を遊べる場所にしたい
- 子どもは異年齢の子ども同士が交流しあい（動物を育てる、物を育てるなど）様々な経験を豊富にすることができる
- 子ども同士で自由に遊び、大人がそっと見守っている
- 子ども達が伸び伸びと子どもらしく育っている
- 土を通して物作りの楽しさを考える
- 家庭教育（人間として学ぶ基礎的なものを身につける）↓学校教育+学業（他人を尊重する←自分を大切にする）
- 緑の多い広い公園で元気いっぱいに子ども達が走り遊びまわっている

社会全体が協力して子どもを育てる

- 子育てする親（特に母親）が孤立することなく、地域などいろんな人に、多くの人に支えられ、囲まれながら楽しく子育てできる
- 地域が子どもを育てる
- 学校と家庭だけでなく、地域が子どもの育ちに協力している
- 地域の人材を生かし、学校教育に取り組むことにより一層の交流が深まるのではないか
- 地域であいさつができる。子ども達に声をかけられる
- 学校、親、地域社会が子どものために協力しようという意識が高まっている
- 父 母 子ども 行政 社会 参加
- 家庭、教育、社会が一体となり、子どもを心身ともに育てること⇒世界に自国が誇れるよう育てられたら良い
- 父→子ども←母 ↓ 学校教育 ↓ 地域・社会援助
- 色々な経験や職業のある大人が子ども達に自分達の経験や仕事を見せたり語ったりする場がある
- 赤ちゃんや小さな子どもから大人、高齢者まで楽しく交流し合える

自分らしく子育てができる。個人が尊重される仲の良い家庭

- 父 共同 子ども 育児 母
- お父さんもお母さんも自分らしく仕事や生活、子育てをして満足している
- 職業を持つ親やこれから仕事をしようとする親が安心して子どもを預ける場所がいつでも十分ある

Cグループ

情操を向上させる教育（ボランティア参加）

- ボランティアができる子ども達
- 人と人とのコミュニケーションの場が多い教育が増えていると良いなと思います。
- 礼節 子どもからのしつけ、家庭・学校
- 学校の中に学校と地域を結ぶコーディネーターシステムを作る（教員経験者の人がコーディネーターになる）
- 他人の話を聞ける子ども
- 40人学級を35人学級に（あまり少人数はコミュニケーション能力がなくなる）
- エコ学習の低年齢化 家庭と学校同時に

時代に見合うさらなる教育の拡大

- 教育施設の利用 学校側の理解と受け入れ
- 小・中学校の理科・技術系授業を強化する（情報化・IT化・グローバル化を乗り越えられるために）
- インターネット等のネットワークを上手く使用して、学習が常にできると良い
- 子どもの体験教育の拡大（実習）

国際感覚のさらなる向上

- 外国人との共生 子ども達のために日本語学級。大人達のために夜間学級
- 楽しみながら勉強方法 クイズだといえば喜ぶ勉強方法

子育ての環境

- 都市核の南砂にコミュニティ道路、通学路、ゆったりした環境づくり
- アレルギーを引き起こすような公害が減少してアトピーやぜんそく持ちの子どもが少なくなっていればいいなと思います
- 豊洲公園のような緑の多い公園が近くに点在するといいなと思います

小学生から大学生までの一貫教育

- 幼保、小、中、高、大と学校をあがるたびに環境が変わらない教育体制であってほしい

社会がゆとりを取り戻す

- 中学生のストレスのパーセンテージは大人と同じと新聞で発表されたが子どもの悩みを聞く方法を
- 受験、競争のストレスから子どもも大人も解放されている

教育の機会均等

- 教育に所得格差が差別とならない（奨学金、教育費無料、公教育の充実）
- 公立の学校教育の充実（塾に行かなくてもきちんと学べる）

教育の原点にかえる（真の学びがある）

- 親も学べる場があり、仲間をつくれるようになっている。大人も学べる場がある

Bグループ

子育て・育児支援

- 育児支援システムづくり
  産後のウツ、育児不安、楽しい育児生活のため、育児支援者を養成し、各家庭での育児相談支援を行うシステムを作る（行政・地域）
- 困り事があったらいつでも飛び込める家づくり

学校教育の充実

- ゆとり教育がなくなり土曜日も登校するようになる
  やる気のある学校と薄い学校とに差ができる
- 土曜・休日をもっと教育に当てるべき
- 補助教員をつける
  校長の他にしつけ対策の専門教員を置く
- 幼児から英語やPCを使うのでグローバルな考えのできる子どもが増える
- 高齢者予算より子ども達にもっと予算を

世代を超えた交流の場づくりと人的環境づくり

- 学校・公園等における子どもからお年寄りまで集まれる地域コミュニティの確立
- 地域と学校の交流
  近隣の方々がもっと学校に協力しやすくする
  ＜例＞放課後の交流指導
- 老人との交流が行われている
- 子ども達が安心して通学、遊べる環境が整備されている（防犯、交通等の問題）
- 何かの目標に対して世代を超えた交流ができている
- 地域の人々が当たり前に声を掛けられる、挨拶が双方でできる街になっている

家庭教育

- 家族で食事をすることが当たり前である生活（家庭）
- 親と子の絆の大切さが見直され、血のかよった家族構成がなされた区になる
- 家庭でのしつけ
  学校での教育が適正に整った環境
- 学力も大事と思うが、江東の子ども達が心の豊かさをきちんともった環境になっている
- 親教育のシステムづくり
  地域、行政一体で、一人の人として、また、健全な子育てできる親育てのシステムをつくる
- 親の働く姿を見せる学習が行われている

子どもの居場所づくり

- 北部地域の子どもが少なくなり、南部地域に子どもが増え、学校が足りなくなる
- 廃校の有効利用
  地域の子育て、子ども達、老人が一同に集える場所にする
- 夜間、子ども達が過ごせる場所ができている
- 中高生の居場所づくり
  非行防止のためにも是非彼らにのびのびできる場を
- 教育施設が豊かな区

江東区は農業！

- 農業体験学習が毎年行われている
- 校庭または近隣公園等に子ども達の農園をつくり自分たちの手で野菜づくりができる場
- 自然にふれあう機会にめぐまれた区になっている
- IT化時代においてもものづくりの良さをもっともっと理解できる子ども達が触れ、体験できる環境
- 教育に農業などを組み入れて食料自給率が100%となっている区

Dグループ

子ども主体の授業内容

- 学力-教育
  その水準を国内はもとより国際的な比較で高い水準に引きあげる
- 子どものレベルに合った少人数授業が行われている
- 勉強が好きになる授業を子ども達に

まわりの力を借りた安心の子育て

- 安心-子育て
  核家族化、都市化で不足してきた安心感、ぬくもりを地域行政で補う
- 育児をまち全体で行っている
- 子育てを楽しめる環境づくりをめざす
- 保育時間終了後のフォローを完璧にできる体制（学童クラブの充実）
- 江東区には神社とお寺が多い。緑の環境で大人が祈る姿が子どもに伝わる。
  家庭の子育て、豊かな心の育成、歴史と文化が人を育てる
- 中学生が小学生に勉強を教えている

社会の役割

- 学校外での体験を通じて学ぶ事
- 小・中授業の中に子育て授業がある（育児）
- 学校の外でも授業が行われている
- 全ての学校の授業にコミュニケーション授業が組み込まれている
- 職人と子ども達の交流が盛ん
- 企業との連携での学習体制

可能性を育てる

- 少年少女を含めたスポーツ施設の数を増やす
- 創造力を育てる授業

家庭教育

- 「家庭」
  つながりの中で育てられて現在でも通用する3世代家族が望ましい

公立教育施設選択の自由

- 自由-教育
  地域毎に決められた施設を選択可能とする
  ⇒施設の競争も促す

環境と子育て

- 将来のある子どもをのびのび育てるために『行政』として法律にしばることがないように
  <例＞先日噴水公園で子どもの騒音を訴え、遊べなくなった。社会も家庭も元気に育っていると思えば心地よいと感じる方がロマンがある
- まちなかで行きかう人が何気なく挨拶している
- 子どもには大人が必ず一声かけて通っている
- 子どもの安全管理を充実させるため一人ひとりに対策器具を支給する
- 子ども達が安全に、しっかり遊べる環境をつくる
- 安全-子育て
  治安の維持
  風紀の乱れを芽のうちに摘む
  明るい夜道
- 最小限の基本的なマナーを子どものうちにしっかり身につける

教育機会の充実

- 3歳児から要望する教育が受けられるよう教育システム等の充実
- 平等-教育
  親の経済力による教育水準の格差をなくす